

若い力で 納豆業界を元気に

第3回 (月1回掲載)

～明日の業界を担う青年同友会メンバーに聞く～

納豆業界の若手による組合「青年同友会」。そのメンバーを紹介する本コーナーの第3回は、埼玉県浦川市にある日東食品の長谷川健太郎社長。元海上自衛隊のパイロットという、納豆業界では珍しい経歴を持つ。そんな長谷川社長率いる日東食品は、業務用納豆をメインに製造しており、学校給食、産業給食、外食チェーン向けに販売している。同社の代表商品の一つ「彩の国」というのは、埼玉県産の大豆を使用した地産地消納豆。地産地消という考え方がまだ一般的ではなかった発売当時(99年)、先駆的な取り組みとして業界内外から評価された。現在、埼玉県内の学校給食でたくさんの子供たちに親しまれている。長身にピンとした姿勢が印象的な元海上自衛隊パイロットに、地産地消納豆と業界について話を伺ってみた。(池田)

納豆業界に入られると同じというわけではなかった。前。

長谷川 86年から94年まで養成訓練を含め8年間、海上自衛隊に勤めており、護衛艦から発着艦する哨戒ヘリコプター「SH-60J」のパイロットをしていた。

民間パイロットを養成する運輸省航空大学校、航空管制官を養成する運輸省航空保安大学校にも合格していたが、俳優リチャード・ギア主演の「愛と青春の旅立ち」(海軍士官養成学校の飛行士課程)に志願する主人公の青春を描いた映画に憧れて海上自衛隊に入隊することに。映画のシーンであったが、訓練は厳しかったが、全ての面が映画と



納豆業界には、当時当社の社長を務めていた父の体

調が悪くなったことがきっかけとなり、94年に日東食品に入社。私は3人兄弟の長男で、いずれは会社を継ぐという気持ちもあった。最初は製造などの現場に携わっていたが、これまで海上自衛隊という特殊な環境で働いていたので、経済や経営などについて一から

学ぶために、95年から1年間、経営コンサルタント養成講座に通い勉強した。

そして96年8月、父の他界に伴い社長に就任。30歳の製造工程が描かれていた。父は6年前に加入した青年同友会に加入した。それまで付き合いのなかった同業他社との繋がりができ、視野が広がったことが良かった。

「彩の国」という

当初は20万食を目標にしたが、最初の3カ月で到達し、初年度は年間70万食を出荷した。現在は埼玉県内の小中学生の給食向けに年間約90万食を出荷している。

保護者の方から、「普段納豆が苦手な家で食えない娘が、給食に出る彩の国なっとうなら食べるんです。介して頂いているが、これ

だが、小学校の生徒から、家族旅行で泊まった地方のホテルの朝食で出てきた納豆が、たまたま当社のものであったというお話を聞いた。現在、国産ひきわりスティック納豆という商品を通販専門チャンネル「ショップチャンネル」(スカパー・CATVで放映)で紹介するために、消費者ばかりに期待するのではなく、こちら側から積極的に価値や魅力をいかにアピールしていくかが課題だと思っ

元海上自衛隊パイロット 地産地消納豆で食の安全を守る

日東食品社長 長谷川健太郎



長谷川 学校給食などを通して、引き続き食育に貢献していきたい。また、昨年10月に、小容量タイプ(20g)の納豆を新発売した。弁当などに入れても多すぎない量で、弁当に納豆を少しだけ食べたいというニーズに応える商品となっている。小容量タイプはまだこの商品だけだが、今後展開していきたいと思う。